

謝辞

本研究を進めるにあたり、修士時代から5年間、主査として研究を基礎から指導して頂いた慶應義塾大学 安村通晃教授に深く感謝いたします。安村先生には、のびのびとした研究環境を用意して頂き、5年間非常に充実した研究生生活を送ることができました。

また、副査として、かつ、インタラクションデザインプロジェクトに参加して頂き、本研究に関して多くの的確なコメントとアドバイスをして頂きました慶應義塾大学 増井俊之教授に深く感謝いたします。増井先生の研究に対する姿勢や考え方などには非常に共感できるところがあり、今後自分の研究活動における考え方の基礎となっていくことでしょう。

また、副査として、本研究に関して、特に評価実験に関してご指導いただきました慶應義塾大学 小川克彦教授および慶應義塾 萩野達也教授に感謝いたします。小川先生から頂いた本研究に対する意見やコメントは、本研究に大きな影響を与えております。

さらに、所属する研究会において、多くのコメントとアドバイスや研究に関する相談に乗って頂きました慶應義塾大学 樋口文人先生に感謝いたします。

また、同じ安村研究室に所属する秋山氏、山本氏、白崎氏、吉椿氏に感謝いたします。秋山氏には、ブレインストーミングなどで面白いアイデアをたくさん出して頂き、研究に対する大きな刺激を受けました。山本氏には、Webに関する新しい技術などの話をたくさんして頂き、技術に対する大きな刺激を受けました。白崎氏とは、よく夜遅くまで一緒に研究室に残って研究を行い、よく車で湘南台駅まで送って頂きました。吉椿氏には、研究室にいつも明るい雰囲気をもたらして頂き、研究室としてのまとまりやつながりを与えて頂きました。

最後に、安村研究室およびインタラクションデザインプロジェクトに所属するみなさんには、日頃から本研究に関するアドバイスをして頂いたり、研究に関する議論をして頂き、大変感謝いたします。

2012年1月

慶應義塾大学 大学院政策・メディア研究科博士課程3年

上野 大樹